Synesis version 3.5
リリースノート
2018/01/31, build 367

1. 概要

本文書は、大容量パケットキャプチャ/解析システム「Synesis」のリリースノートです。

2. Synesis version 3.5 の新機能

2.1. パケットリプレイヤー (オプション機能)

- Synesis のキャプチャポートから実環境にトラフィックをリプレイ可能になりました。 (Ref #2857)
- トレースファイルまたはキャプチャレコードが指定可能になりました。 (Ref #2857)

2.2. Wireshark/tshark の利用

- Synesis にインストールされた Wireshark のバージョンをユーザが任意に変更できるようになりました。また、Wireshark に対してプラグインが追加可能になりました。 (Ref #2872)
- Synesis でターミナルを起動し、tshark を使用できるようになりました。 (Ref #2114)

2.3. リモートデスクトップ

- Synesis の全モデルでリモートデスクトップ機能が利用可能になりました。また、リモートデスクトップに MATE 環境を利用することで、操作が軽快になりました。 (Ref #T50760)

2.4. 日本語化

- OS のログイン画面、ログイン後のデスクトップ、ターミナル、およびリモートデスクトップが日本語化されました。 (Ref #T60935)
- Firefox/LibreOffice/Wireshark... のアプリケーションが日本語化されました。 (Ref #T60935)

2.5. ダッシュボード

- L3 統計情報 (ICMP, TCP, UDP, OTHERS のバイト数、パケット数) が確認可能になりました。 (Ref #2856)

- ブロードキャスト、マルチキャスト、ユニキャストが DLC トレンドチャートで確認可能になりました。 (Ref #2923)

2.6. エージェント画面

- キャプチャ中の自動解析 ON/OFF が、キャプチャオプション画面で設定可能になりました。 (Ref #2870)
- エージェントの概要画面に表示する時系列のグラフで KPI が選択可能になりました。 (Ref #3022)

2.7. キャプチャフィルタ

- パターンによる指定が AND/OR 条件で結合できるようになりました。 (Ref #3504)

2.8. 保存フィルタ

- L2/L3 プロトコルによるフィルタが可能になりました。(Ref #2930)
- ポート番号および VLAN ID が範囲および複数値で指定可能になりました。 (Ref #2931, #2932)

2.9. デコード

- EoE ヘッダのデコードが可能になりました。 (Ref #1644)
- デコードの性能を改善し、最大で 4GB のファイルがデコード可能になりました。 (Ref #2896)
- デコード画面で VLAN フィルタが使用可能になりました。 (Ref #2926)

2.10. 通知・アラート機能

- パケットドロップ、リンクステータスの変化、自動保存の失敗が通知できるようになりました。 (Ref #2633, #2634)
- 各種アラート、および周期レポートの通知先が個別に指定可能になりました。 (Ref #2867)
- e-mail 通知用の SMTP サーバ情報が Synesis 上で編集可能になりました。 (Ref #2868)
- APM アラートの入力上限値を 2,100,000,000 ミリ秒に拡張しました。 (Ref #2138)

2.11. レポート機能

- 周期レポートのフォーマットが改善されました。 (Ref #2457)
- DLC 統計データが CSV 形式で、周期レポートとして出力可能になりました。 (Ref #2451)

2.12. ログインセッションの管理

- 同時ログイン数が制限できるようになりました。 (Ref #2899)
- 無操作の状態が継続した場合に、自動でログアウトするようになりました。 (Ref #2898)

2.13. Synesis の管理機能

- NTP の ON/OFF、および接続先サーバが Synesis 上から編集可能になりました。 (Ref #3936)

- Synesis の設定を一括でバックアップし、同モデルの Synesis に復元できるようになりました。 (Ref #2139)
- Synesis の設定が初期化できるようになりました。 (Ref #T55499)
- Synesis の各モジュールのバージョンが、画面上で確認可能になりました。 (Ref #T51252)

2.14. ログの出力・取得

- Synesis の GUI 上での操作ログが確認可能になりました。 (Ref #2902)
- ログ出力の詳細度が Synesis の管理画面で変更可能になりました。 (Ref #2933)
- Synesis のハードウェアに関するログが管理画面から取得可能になりました。 (Ref #55737)

2.15. PTP 対応

- PTP による時刻同期が可能になりました。 (Ref #T60593)

2.16. Firefox

- Synesis にインストールされている Firefox がバージョン 57 になりました。

3. 仕様変更された機能

- これまでキャプチャ開始時、キャプチャカードの時刻が OS 時刻に step で同期していましたが、キャプチャ前の時刻をそのまま保持するようになりました。これにより、PPS 時刻同期中にキャプチャを開始しても、そのまま同期を継続できるようになりました。NTP 同期のみを実施している場合には影響ありません。

4. 廃止された機能

- デコード機能で、フィルタ式 (例. ip=10.159.63.126) のサポートは廃止されました。保存フィルタを定義して適用してください。

5. 新モデル

下記のモデルを新たに追加しました。

- SYS-20G-CP

6. 修正された制限事項・不具合

6.1. 過去のリリースノートに記載のある不具合

- SNMP トラップトリガによるロック機能で、入力したコミュニティ以外のトラップによってもロックが追加される不具合は、修正されました。 (Ref #1721)
- ディスクの空き容量が十分にある場合でも、ディスク容量不足の警告が表示される場合がある不具合は、修正されました。 (Ref #1725)
- デコード画面でフローフィルタを使用し IPv6 のアドレスを "::" で省略した場合、フィルタが正しく適用されない不具合は、修正されました。 (Ref #2178)
- デコード画面の保存フィルタを使ってトレース保存した場合でもトレースファイルタブの保存フィルタの一覧に表示されない不具合は、修正されました。 (Ref #2620)
- デコードタブを開いたままデコード対象のトレースを削除した場合、タブが残り続ける不具合は、修正されました。 (Ref #2637)
- 不正形式のフレームが大量に含まれているレコードをデコードさせると、GUI が停止することがある不具合は、修正されました。 (Ref #2645)
- Email の通知機能と DLC アラート機能が同時に有効の場合、DLC グラフの描画が不安定になる不具合は、修正されました。 (Ref #2653)
- キャプチャ中のレコードの統計情報が、エージェント・ワークスペースのレコードタブからエクスポートできない不具合は、修正されました。 (Ref #2665)
- トレースファイルのサイズが 256 MB より大きい場合、デコード機能へのリンクが表示されない制限は、撤廃されました。(Ref #2756)
- デコード画面では、最大 500,000 個のパケットまでしか表示できない制限は、撤廃されました。 (Ref #2756)
- Wireshark の SSL デコード機能を使用する際に、キーファイルの削除・追加の操作を行うと Wireshark が強制終了することがある不具合は、修正されました。 (Ref #3450)
- リモートデスクトップから LibreOffice スイートを使用する場合、メニューのショートカット表示が "???" のように文字化けする不具合は、修正されました。

6.2. 過去のリリースノートには記載のない不具合

- 解析データの削除を実行してもマイクロバーストのデータが削除されない不具合は、修正されました。 (Ref #3680)
- アラートによる通知が設定された状態でキャプチャ済のレコードを解析すると、一斉に通知が飛ばされる不具合は、修正されました。 (Ref #T55410)
- キャプチャフィルタでアプリケーションを選択し、TCP・UDP ともチェックした場合、フィルタが正しく機能しない不具合は、修正されました。 (Ref #T59197)
- 前日のキャプチャデータがない状態で、日本時間の 9:00～10:00 にキャプチャを開始すると、正常にキャプチャが停止できなくなる不具合は、修正されました。 (Ref #T60407)

7. 既知の不具合

7.1. バージョン 3.1 以前からの不具合

- マイクロバースト解析または APM/NPM 解析を行っていないにもかかわらず、レコードリストのページからマイクロバースト、APM/NPM 画面へ移動するボタンを押すことができます。 (Ref #367)
- キャプチャ中のレコードの名称を変更しても、キャプチャ終了時に変更前の名称に戻ります。 (Ref #1114)
- ダッシュボード上で DLC グラフを追加する場合、追加時に対象のチャネルを指定できません。デフォルトはチャネル A になっており、編集画面にて変更することができます。(Ref #1230)
- アラート画面から各アラートのトレースファイルを作成しようとした場合、ソフトウェアフィルタが自動では適用されません。デフォルト設定では該当の期間の全パケットが保存されます。(Ref #1466/#1649)
- メモリ使用量が多い状態でバックアップを実行すると、タイムアウトによりバックアップの作成に失敗することがあります。(Ref #1752)
- フィルタ画面で新規フィルタを作成する画面を開いた際、前回入力した値がそのまま表示されます。 (Ref #1754)
- 直近のデータの解析結果は、キャプチャの停止を行う、または次のパケットがキャプチャされるまで、ダッシュボード、APM/NPM 画面で閲覧できません。 (Ref #2865)

7.2. 本バージョンで追加した既知の不具合

- デコード画面からトレース保存を行う場合、ファイル名を指定できません。 (Ref #4017)
- インストール後はじめて L2/L3 プロトコル統計を有効にして自動解析を ON にした場合、キャプチャ開始直後の 1 秒間、およびキャプチャ終了直前の 1 秒間のカウントが実数より少なくなる場合があります。 (Ref #4169)
- ダッシュボード画面のトレンドグラフで、表示期間を 30 分以上にした場合、右端のプロットが 0 になる場合があります。 (Ref #4212)
- 最大ファイル数を 2 以上としてトレースの保存を開始し、保存先の容量が一杯になった場合は、作成済のファイルもダウンロードできません。 (Ref #4358)
- 解析の進捗度は、解析が完了するまでは 0%と表示されます。実際の進捗度は表示されません。 (Ref #4580)
- パケットリプレイヤーの置換機能でチェックサム対象部分を書き換えても、IP、TCP、UDP ヘッダのチェックサムは自動的に再計算されません。 (Ref #4601)
- Internet Explorer で Synesis にアクセスすると、画面遷移の際に予期しないタイミングでセッションが切れ、ログアウトする場合があります。 (Ref #4624)
- パケットリプレイヤーの置換機能で、全ての MAC アドレスを一括で書き換える機能は未対応です。 (Ref #4706)
- レポート機能の周期レポートおよび単発レポートで、集計間隔が 1 ヶ月のグラフは、正しく描画されない場合があります。 (Ref #4741)

- 統計のエクスポート機能で、ユニキャストパケットの総和が実際と合わない場合があります。この現象はブロードキャストパケットおよびマルチキャストパケットのみキャプチャされ、ユニキャストパケットがキャプチャされない場合に発生します。 (Ref #4771)
- SYS-2G-EP/SYS-2G-ER モデルでキャプチャ後にマイクロバースト解析を行うと、複数チャネルでバーストが発生している場合に正しく検知できない場合があります。キャプチャ中の自動解析であれば正しく検知できます。 (Ref #4774)
- ディスクフル時の動作を停止にしてキャプチャを開始した場合、ディスクがフルになった後もキャプチャステータスが更新されません。画面をリフレッシュするとステータスが停止になります。 (Ref #4781)
- Synesis の初期化機能を出荷後はじめて実行した場合に失敗することがありますが、もう 1 度初期化を実行すれば正常に完了できます。 (Ref #T62515)

8. 制限事項

8.1. バージョン 3.1 以前からの制限事項

- APM/NPM 画面において、新たに登録したサイト、サーバーグループはウェブページをリフレッシュするまで反映されません。 (Ref #130)
- レポートテンプレートを日本語の文字を含めて作成し、英語設定のブラウザでレポートを作成すると、日本語が文字化けします。 (Ref #1138)
- バックアップされたレコードに対し、マイクロバーストの閾値の変更機能を行うと、結果が表示されません。リセットを行えば、元々の解析結果が再度表示されます。 (Ref #1507)
- 統計情報をエクスポートしたレコードに対してバックアップを行った場合、作成済みの統計情報がバックアップされません。再度統計情報をエクスポートし直すことはできます。 (Ref #1512)
- マイクロバースト解析を行った 5 分未満のレコードをバックアップした場合、リストアしてもマイクロバーストの解析結果が表示されません。5 分以上のレコードであれば正常に表示されます。(Ref #1506)
- バックアップされたレコードに対し、選択した時間範囲の統計をエクスポートしようとすると、それが実行できない旨のエラーが表示されます。全範囲のエクスポートは実行可能です。 (Ref #2643)
- 各チャネルのリンク状況を確認できるモデルで、キャプチャ開始直後の統計情報のステータスが "unknown"と表示されることがあります。 (Ref #3671)
- 検出したマイクロバーストのアラームは最大 500 個までしかテーブルに表示できません。
- キャプチャ期間が 5 分未満のレコードでは、APM 解析の結果が検出できないことがあります。APM 解析を行う場合には 5 分以上キャプチャしたレコードに対して行ってください。
- キャプチャ開始後 2 秒間はパケット数などの統計情報がカウントされません。
- マイクロバースト解析はチャネル A～D に対してのみ実行できます。SYS-8G2-HPR モデルでは、チャネル E～H のデータはマイクロバースト解析できません。
- 自動保存機能の保存先としてネットワークマウントを行っているディレクトリを指定する場合には、マウント時に適切にタイムアウトを設定する必要があります。

- 自動保存機能は、キャプチャ停止の直前 10 秒間のパケットは保存されません。

8.2. 本バージョンで追加した制限事項

- SYS-2G-ER で自動保存機能を使用すると、キャプチャ性能に影響が出る場合があります。
- パケットリプレイヤー機能では、複数ポートから再生する場合はフルレートの性能が出せません。1 ポートからの再生時のみフルレートでの再生が可能です。
- 周期レポート機能でトレンドグラフを生成すると、時間範囲の最終時刻を X 軸の値としてプロットします。例えば集計間隔 1 日のグラフで、1/1 0:00 から 1/2 0:00 のデータ点は、横軸が 1/2 の位置にプロットされます。
- 設定のバックアップ・リストア機能では、異なるモデルの Synesis に設定をリストアする場合、別途ファイルを編集する必要があります。
- 設定のバックアップ・リストア機能および Synesis の初期化機能は、OS のユーザ名またはパスワードを変更した環境では、実行時にエラーが発生するためご利用になれません。

以上